

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902989
法人名	有限会社 エイシン学院
事業所名	ローズホーム
訪問調査日	平成21年1月28日
評価確定日	平成21年2月19日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 2月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	第1471902989号
法人名	有限会社 エイシン学院
事業所名	ローズホーム
所在地	横須賀市長瀬1-13-3 (電話) 046-843-0706

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 22日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 1月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	28人	常勤 14人	非常勤 14人	常勤換算 14.0人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	3 階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	44,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(480,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要 (12月22日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	パシフィックホスピタル、浦賀病院、まつもと内科クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは久里浜湾に面した風光明媚な環境にあります。オーナー夫妻や職員は、家族の様なあたたか味を大事にした終の棲家を目指しています。看取りの実績も数件あります。利用者定員18名に対し、職員は28名を数え、入居環境や家族、地域への配慮にも手が行き届いています。新潟から取り寄せたお米や中華・寿司の出張料理、外食の機会を設けるなど毎日の食事へのこだわりを中心に、近隣への外出、旅行、ホーム内でのフラダンスやリボンレイ作り、機能や筋力を高めるスローピングなど充実した環境が作られています。また、利用者の生活歴を大切に、通院支援、クラス会や教会への外出支援、ホーム内での書道の指導支援(個展の実現)など利用者一人ひとりの生活の質の向上への配慮を感じます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価での改善課題は、特にありませんでした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が職員ミーティングで説明を行い、全職員で自己評価に取り組み、その結果を管理者が取りまとめました。管理者、職員は今回の自己評価を日頃のサービスへの見直しと改善の機会と捉え、サービスの向上に取り組む意向でいます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、市職員、民生委員、地域包括支援センター職員、4事業所合同の地域会議が2回、町内会会長、民生委員、家族、利用者、事業所側での事業所会議が3回開催されています。事業所側より、行事や医療連携についての報告や、地域の集まりへのホーム開放の申し出が行われています。出席者から、自治会行事や老人会行事へのお誘いがあり、構成員に自治会の支部長も加わる事になり、グループホームへの相互理解を深めています。管理者は、防災時への協力関係も要請しています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の声については、通常の面会時に声かけし、直接聞くように努めています。また、年2回の家族会や玄関に置いた「ご意見箱」の設置と共に、ホーム内行事や運営推進会議への出席も仰いでおり、たくさんの家族の出席があり交流連携に努めています。重要事項説明書にホーム内外の苦情申し立て機関を明記しています。要望等があった場合には、ケース記録、申し送りノートに記入し回覧して共有化を行っています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に法人として加入しています。職員も自治会の行事のお手伝いをしたり、お祭り時の休息場所の提供や餅つき大会やどんど焼き、運動会、防災訓練などに職員と一緒に利用者も参加しています。近隣のお年寄りにホームへ気軽に立ち寄ってもらい、カラオケ、ダンス、利用者の作ったパンの試食等を通じた交流が行われており、地域との良い関係が築かれています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は、「おいしい食事と楽しい1日をすごそう」です。地域の行事への参加や交流、毎日の食事を中心に出張料理、旅行や外出、専任講師を導入したフラダンスやスローピング(増有酸素運動)、リボンレイ作りなどを通じて実現されています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホーム内に掲示されており、管理者は、日々のミーティングや家族会、運営推進会議など折に触れて理念の浸透に向けて取り組んでいます。また理念はシンプルな内容にしています。介護計画にも反映して、日々のケアの場面で実践されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入しており、餅つき大会や防災訓練に利用者と共に参加しています。夏祭り際には駐車場を開放するなど自治会行事には積極的に参加しています。ホーム内行事に招いたり、近隣のお年寄りのサークル活動の場を提供して、相互交流を行い馴染みの関係を作っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員ミーティングで外部評価についての説明を行いました。自己評価には全職員で取り組み、管理者が取りまとめを行いました。管理者や職員は今回の外部評価、自己評価を日頃のケアの見直しと改善の機会と捉え、サービスの向上に活かして行く意向です。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域内の4事業所合同で2回の会議を行い、市や地域包括支援センターを含め、交流連携しています。事業所会議は、現在まで3回開催されています。事業所側より、行事経過やホームを地域の集まり場所として提供するなどの報告がありました。メンバーは、ホームの理解者となり交流連携しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横須賀市グループホーム協議会に参加して年に3回、交流連携の機会を持っています。また、横須賀市主催のグループホーム講習会への参加や個別ケースについての相談も行っています。地域包括支援センターにホームのパンフレットを配備告知に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に日常の様子を伝えています。機関紙「ローズレター」を隔月発行しています。内容は行事の写真、看護師、ケアマネ、スタッフ、管理者より詳細な様子の報告が行われています。家族会や行事に参加を仰ぎ、その際に日頃の写真等を見てもらい交流連携に努めています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置すると共に、重要事項説明書にて、ホーム内外の苦情申し立て機関の説明をしています。年2回の家族会やホーム行事への参加を仰いでいます。面会時にも、積極的に交流連携に努めています。要望などがあった場合には、申し送りノートに記載し回覧して共有しています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職も少なく、馴染みの職員によるケアがマンツーマンで提供されています。管理者は、人員配置に余裕を持たせ、職員に無理をさせないようなシフトを心掛けています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員が均等に研修に参加出来るように配慮しています。非常勤職員も含めて外部研修に参加した場合には、研修費、交通費が支給されています。今後は、職員各自に応じた段階的な研修計画の作成が望まれます。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム協議会の研修に参加して、勉強会や事例検討を行っています。横須賀市のグループホーム協議会主催の職員交換研修を受け、ホーム職員も交換研修に参加した中から、申し送りの実施方法を取り入れました。相互に交流連携を行いながらサービス向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の希望があった場合には、ホームの見学や理念の説明を行い入居申し込みをしていただきます。その時の面接記録を作成し保管しています。出来るだけレクリエーションや食事に参加していただき、納得を得られてから、訪問の上、契約を行います。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を年長者として、敬いの気持ちで接しています。リボンレイ作りでは、近隣からの参加者への講師役を利用者が務めています。自治会のバザーなどで、利用者のお手製のリボンレイやパンを出品して大盛況でした。その際のお金の出し入れも利用者自身で行えるように支援しています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に家族から聴き取った面接記録、生活暦や日々の会話、行動、表情から一人ひとりの意向や思いを汲み取るように努力しています。また、パン作り、カルタ作り、クリスマスツリー作り等それぞれ意向に沿った暮らし方を支援しています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族、看護師、ケアマネのカンファレンスにより利用者一人ひとりにとってどんな支援が必要かをかけ付け医を交え計画を作成しています。体操やフラダンス等のレクリエーションやパン作り等の日頃の関わりの中で気づきや意見を反映しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>申し送り表をはじめ個人ファイルには、日々の様子、言葉など記録しています。利用者の状態の変化に合わせて介護計画の見直しをしています。検討した項目内容や実施すべき結論を記録し、残された課題を確認しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制によって医師や看護師と24時間連絡がとれ、医療面では安心した支援を受けられます。数名の見取りの体験もあり、ターミナルケアについては本人・家族の要望に対応しています。専門家による体操をはじめ趣向を凝らした身体機能訓練維持を楽しみながら支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族とよく話し合い希望によりかかりつけ医の受診を支援しています。ホームの協力医療機関とは24時間綿密な関係が築かれ、適切な受診が支援されています。受診には管理者や職員が付添い送迎車で対応しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に過去数名の看取りを行っている事を説明し、家族と終末期のケアについて希望を聞いています。その後も日常のケース記録をもとに本人・家族、ホームドクターと話し合いながら方針を確認しターミナルプランを作成しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの個性に合わせ、誇りや尊厳を損ねることのないような言葉掛け、言葉遣いを確認し合っています。個人情報の記録は鍵の掛かる書庫に保管し、取り扱いも職員へ周知されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の細かく決められたスケジュールはなく、一人ひとりのペースを大事にしています。職員の声掛けにより、他の入居者のやりたいことを一緒にしたり、自己決定できる人には希望に沿う支援をしています。静かな夜にお習字をして朝ゆっくり起きています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	理念に「楽しい食事」とあるように美味しいものを楽しく食べることに努力しています。新潟から取り寄せたお米をホームで精米し、漬物、佃煮、果物などの嗜好品についても個人の好みに対応しています。配膳、下膳や皿洗いなど利用者と職員と一緒におしゃべりしながら楽しんでいます。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には曜日は決まっていますが、一人ひとりの生活習慣や気持ちを尊重して他の曜日でも対応しています。入浴拒否のある方には昔話をしながら楽しく入るなど、工夫をしながら上手に誘導しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や、家族からの情報をアセスメントして、一人ひとりが生き活きとできる場面を作り出しています。体操、フラダンス、パン作りや利用者が指導者になっているリボンレイ作りやお習字など活力を引出して生きることへの支援をしています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	これまでの生活以上に、家族では出来なかった外出の機会を多く支援しています。地域のフォーラム、花見、蛸狩り、映画鑑賞、美術館など日帰り・車いす対応の場所なら全員参加をモットーに楽しんでいます。散歩時の買物は社会参加としてとらえています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上旋錠しています。外へ行きたい利用者へは職員が声掛けしながら外へ付添ったりして対応しています。旋錠することの弊害については管理者が職員へ認識を喚起し周知を図っています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「ローズホーム消防計画」を作成し、避難訓練は日中、夜間それぞれ実施し、地域・消防署等との協力体制を確認しています。消防通報装置を設置しています。スプリンクラーの設置が義務付けられ、それに備えて設置の予定です。災害マニュアル対策も整備されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの、体調に合わせての栄養バランス、食事量となっています。食事量、水分摂取量は毎日詳細に記録し把握しています。最後まで自力摂取を目指し、利用者に応じた食事形態・盛付け・食器具の工夫をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々した玄関には色とりどりの花や大きな人形が迎えてくれます。モダンなリビング、食堂の共用スペースに大きなテレビがあり、壁には利用者のご自慢の作品が飾られていて多くの利用者はここで1日の大半を思いおもいのことをしながら過ごしています。3階には海の見える広いフリースペースがあり、家族との交友の場や多種目的に利用されています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房完備の各居室はそれぞれ日常的に使い慣れた家具を持ち込みテレビ、家族の写真や調度品など思い出深い物が置かれています。安心してそこが自分の空間として感じられる雰囲気になっています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ローズホーム
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市長瀬1 - 13 - 3
記入者名 (管理者)	藤崎 麗意子
記入日	平成 20 年 12 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	町内運動会、バザー、餅つき大会等の行事に必ず参加します。町内会より声かけ、お迎え等があり、事業所としても、法人として町内会員として加入しています。町内会のほうより永くおつきあいを、と利用者全員が地域の一員として溶け込むように普段より寄付、お手伝い等積極的に行っています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティング時には、全員で理念の共有を確認し、現場にて取り組んでいます。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	三ヶ月ごとの事業所運営推進会議や年二回の家族会を通じてご家族、町内会長、ホームドクター、民生委員、等参加の上理念の浸透に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な付き合いをしながら、日曜の午後ホームで利用者さんが作ったパンを焼きあがった頃、近隣の皆様と一緒に食べる場所として提供しようと町内会と企画中です。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	餅つきの手伝い、夏祭りの休憩所、町内サークルの場と、互いに気軽に交流できる環境が出来ています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方が気軽に訪ねてきて、カラオケ。ダンス(町内のサークル活動)がホームで行えるようにしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々、申し送り時、ヒアリング発生時、役職者会議を通して、意識を高め改善に取り組んで居ます。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年四回事業所会議を行い、その際家族からの意見、その他年二回地域会議においては、地域包括や、市の職員、民生委員の方々の意見をサービスに活かしています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	細かな事例についても、相談しながらサービスを提供しています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	専門的な知識を必要とする制度の研修には参加をしています。その都度状況に応じて活用を薦めています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、スピーチロックについて、職員全員で研修を行い、防止に向けて努力しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前に何回も見学に来てもらい、レク等にも一緒に参加してからの入所に努めています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族とのコミュニケーションは細かく取りながら、外部からの意見は透明性を持って対処しています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者さん一人一人にローズレターを発行し写真、看護師、ケアマネ、現場職員、管理者がそれぞれの一言をのせ日々の暮らしぶりをお知らせし異常があった場合は連絡を密にとっており反応は大きいです。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>殆どの家族の方が来所時にいろいろ意見をだしてくれています</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>役職者のミーティングだけでなく個別に話し合える時間を設けています</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員が近所の人が多く職員同士が勤務しやすいようにシフトを組み緊急時には柔軟な対応が可能な勤務調整が出来ます</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホーム開所からスタッフが多く利用者さんも安心した生活がキープでき馴染みの関係ができています</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は研修には積極的に参加し、職員のスキルアップをめざし育成する事を心がけています		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の地域の同業者の交流やサービス向上に向けての活動に参加しています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々のミーティング、夏、忘年会、新年会、誕生会(利用者)の後の職員の交流会と楽しく盛り上がりながら参加(ほとんど全員)しています		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人一人の意見を聞くように心がけ一人一人の力が介護する上に必要であり、重要だということを伝えていきます。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個々に話す時間を持つように心がけています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との相談時間は何時でも可能に対応しています。退所後の相談等もよくあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に空室がない場合通所介護の援助、他の施設への紹介等、積極的に行っています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と良く話し合いを行いサービスを実施する際、本人の健康状態、精神状態を考慮した上で開始しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんの方から聞く体験等職員の知らない事柄について知識を共有することによってお互いの親近感を育みながら支えあいすごしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護の大変さ、家族の悩み等も含めて同じ経験をしている立場同士としての関係を深めています		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員が介入する事によって、家族も一歩外からの(客観的な立場)目線で物が見れる事によって本人との穏やかに関係づくりが出来るように支援しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの友人が遊びにきたり、習字を習いにきたりするときは別の和室を開放して利用いただいています。入居前からの会合、教会も可能な限り参加できるよう送迎、付き添いの支援を行っています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	たまにはけんかになることもありますが、それも良しと考えながら、制止するのではなくその1つの事柄がそれ以降良い関わりになるよう周りで注意しながら努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他のホームや病院に入所された方々に対しても時々あそびに行ったり家族の方もあそびに来たりしていただき、亡くなられた方の墓参り等も行っています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味が色々違う人の集まりの中でも少し難しいところもあるが、職員の数を充当する事によって本人の希望、意向をかなえられるように努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣や環境へのこだわり等は出来る限り維持していただけるようにしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	認知症を本人が理解できないなかで職員が一日の状態を把握しながら見守り、支援をおこなっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、計画作成担当管理者を交えて介護計画を定期的に作成しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態のへんか、病変等があった場合その都度行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をもとにそれぞれのスタッフがその場の立場から活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	階段を利用しての身体機能訓練維持、向上に活かしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティア、民生委員の来訪が多く一緒にリボンレイ作り、パン作り等参加、支援しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状態に合わせて家族も含めた上で協議し行っています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	他のグループホームも含めて、地域包括支援センターとの協働を行っています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診科目(内科医、整形外科、歯科医、耳鼻科医、訪問看護センター、訪問リハビリ)といるなか特にホームドクター(内科医)とは24時間綿密な関係を持って対応しております。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>専門医との受診、治療は職員も含め相談しやすい関係が整っています。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>ホームの看護師、その他訪問看護師を含めて24時間連絡可能な医療関係ができています</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中のケアを含めて退院後の方針についても細かく連絡をとり、連携を行っています。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時にターミナルケアまで行っている説明をした上で、その時の状況をホームドクターと検討をしています。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人の状態を把握した上で、環境を変える(入院)べきか、ホームにて支援すべきか常にホームドクターと検討しています。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人が一番生活しやすい状況を作ることが我々の仕事であり、その事に対する支援は常に行っております。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシー確保を徹底して行っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個人の能力が活かせるような支援計画を行えるよう職員同士心がけています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的には行えていると思います。ただ外出の際、全員の意見を聞くことは不可能なので順番に希望をかなえている現状です。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>それぞれの希望の店に送迎を行っています(美容、理容)遠い家族やいない利用者さんに関しては本人の趣味があった買い物(服装など)に同行しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来ることは皆さんで配膳、下膳、皿ふきなど実施しながら、ランチョンマット、器、盆などその日の気分で選んでいます。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>それぞれの嗜好品は(酒、果物、漬物、佃煮、菓子など)個人の尊厳を重視し揃えております。</p>	

項目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	一人一人の排泄リズムを知り、声かけ誘導しています。徘徊が多い時や便秘が続いている時は、声かけや誘導を多くしています。	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	順番、時間帯は自由に決めて頂いて入浴を実施しています。	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	食事やおやつ時、熟睡しておられる時は利用者さんのペースにあわせて食事等していただいております	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	レク、体操、フラダンス、パンづくり、リボンレイなど、曜日で専門の先生が来て参加はあくまでも利用者の意思に任せていますが、毎回かなりの方が参加されています。	
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	大金については、ホームで管理しておりますが、仏様のお花、散歩時のちょっとした買い物は出来る限り社会参加できるよう支援しています。(半分ぐらいは利用者さんは無理なのが現状です)	
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	地域のフォーラム、日舞発表会など日帰りで車椅子対応な場所があれば全員参加を基本に考えています。	
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	映画鑑賞、美術館、桜(鎌倉)いちょう(横浜県庁)、伊豆、箱根、サファリパーク、蛸狩り(うかい鳥山)、フランス料理(正月家族ともホームにて出張料理)など年間いろいろ企画して支援しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族間の電話は自由に施設内の電話利用が可能になっており、本人がかけられない場合は職員が対応しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を決めていない為いつでも、訪問可能にしています。皆様よく訪問客が多いほうです、教え子さんたちも大勢あつまります。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束なしのケアプランをスタッフ全員で話し合い、取り組み、工夫しながら実践しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室等は鍵がない状態ですが、玄関は犬(2頭)がいるためかけています、		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは常に様子を把握し、状況判断をする事に心がけています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の状態に応じて家具、ベッド等家族と話し合いながら対応しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防署の方より講習会をお願いしたり、研修会にも参加しています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	講習会等に参加し、初期手当に対応の訓練を行っています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練を行っていると共に近隣との関係で、地元の消防団の方々が「何かあったらすぐにかかけます」という常日頃の交流があります。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族からの質問にはきちんと説明しお互いのコミュニケーションを大事に気軽に話し合える環境づくりに努めています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	小さな変化にも家族に報告とともに対応を行っています(いつもと違う生活、外出や旅行、家族等の面会があるときは特に観察し申し送ります)		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティング時、ホームドクター往診時、その他の受診時、薬が変更になったときすべての諸君に伝達を行い理解しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操、野菜ジュース、水分補給は常に心がけています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人のペースに合わせて誘導し義歯洗いは出来る人はご自身で、できない方は職員が行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師、ヘルパー含め常に水分補給、摂取量のチェックは習慣にしています。(きざみの工夫、水分は同じものばかりではなく変化をつけています)		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	市の研修会の参加、感染症に対するマニュアルのチェック(ミーティング時)は行っています。職員、利用者全員のインフルエンザ予防接種、健康診断を実施しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為にハイター消毒(調理器具、ふきん)食材の日付記入など衛生管理を行っています。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は車椅子用スロープ対応と二ヶ所設け、スロープには麻雀のパイで問題を埋め込んで遊び心をだしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた貼り絵、飾りを皆さんで作る玄関等には花(その時期)を飾り季節感を出しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は決まっているが、食事以外の時はソファで犬と遊んだり、手芸を気の合った同士で話をしたり、お部屋でラジオを聴いたり自由に過ごされています。		

項 目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、冷蔵庫、椅子、机、タンス等各居室にて使用されています。	
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除の時、居室に利用者さんのいない時は換気はする様努めています。床暖(全ての居室、居間)なので冬期の温度差があまり気になりません。	
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、階段等手すり設置、冬期においては乾燥防止の為床暖使用	
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗の多い利用者さんには常に見守り、言葉かけをしています。	
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで花、野菜等の栽培を楽しんでいます。	

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループで生活する上で、全ての人に何もかも可能な状態を作るのは無理だと思います。しかし、一人一人の尊厳を大切にする中で、グループ(人との関わり)でしか体験できない日々を楽しく送っていただけるよう支援していきたいと思います。専門講師による体操、リボンレイ、フラダンス、その他食事会(外出が困難な利用者様もいらっしゃるので、フランス料理、中華料理、寿司、日本料理、の出張料理)、旅行、行事参加、催し物と生活を潤す多彩なレクなど交えた中で生活支援を行う事を日々実践しながら利用者さんの笑顔と笑い声があるホームにする様努力しています。